

# 夏の甲子園初優勝―仙台育英学園高等学校硬式野球部に賛辞の楯贈呈

第104回全国高等学校野球選手権大会において、仙台育英学園高等学校硬式野球部が、東北勢として初めての優勝を果たしました。甲子園の頂点に立つ快挙を成し遂げたその功績をたたえ、9月5日、「賛辞の楯」を贈呈しました。

郡市長は「選手の方々の熱い思いが甲子園で爆発して手にした初優勝。決勝戦では、はつらつとしたプレーで、着実にチャンスを生かしながら勝利をつかんだ姿に、



▲夏の甲子園で全国制覇を果たした仙台育英学園高等学校硬式野球部の選手の方々と、郡市長ら関係者らによる記念撮影

市政トピックス

## 音楽で笑顔に―ジャズフェス開催

杜の都・仙台の秋を彩る音楽祭「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が9月10日・11日に開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出演者を県内在住者のグループに限定し、会場を勾当台公園等の7カ所に減らすなど、例年より規模を縮小して行われました。

3年ぶりの開催となった今回のテーマは、演奏する人にも聴く人にも笑顔になってほしいという思いが込められた「Smile」。当日は、86のグループが出演し、熱気あふれる演奏を披露しました。会場を訪れた人たちは、手拍子をしたり、肩を揺らしたりして、全身でリズムを取りながら楽しんでいました。演奏者も観客もジャズの音色に酔いしれた2日間となりました。



▲勾当台公園市民広場ステージでは、ジャズやボサノバなど多彩な音楽が奏でられました

大変感激しました」と選手たちをたたえました。

須江監督は「選手たちが、ひたむきに努力して、自分と向き合い、一戦一戦、力を蓄えて勝ち取った勝利」と話し、主将の佐藤悠斗選手は「優勝旗を東北に持つてくることができ、皆さんと感動を分かち合えたことがうれしい」と優勝の喜びを語りました。

当日は、赤間市議会議長より「仙台市議会議長特別表彰」の授与も行われました。

市政トピックス

## 青葉山エリアの未来像を描く―2つの懇話会設置

青葉山周辺は、歴史や文化、学術、自然などの資源が集積しており、基本計画においても「国際学術文化交流拠点」として、市の持続的な発展を支える重要な拠点に位置付けられています。青葉山エリアの価値や魅力、回遊性の向上等に向けた方向性を示す「(仮称)青葉山エリア文化観光交流ビジョン」と、せんだい青葉山交流広場に整備する方針の音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複

市政トピックス

## 夜間学級入学説明会―学び直しの一歩をサポート

市では、令和5年4月、南小泉中学校に夜間学級(夜間中学)の開設を予定しています。夜間学級は、さまざまな理由により義務教育が修了できなかった方や、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった方、外国籍の方などに学び直しの機会を提供することを目的に設置されたもので、東北では初めての公立夜間中学となります。

8月27日、入学説明会が南小泉中学校で開催され、入学を検討する方やその家族11人が参加。説明会では、授業時間が夕方5時半から夜9時までとなることや、昼の中学校と同じ教科を学ぶことなどの夜間学級についての概要と、入学手続きまでの流れ等の話がありました。説明会終了後には、個別相談も行い、学習内容などについて相談に応じました。

初年度は、県内在住の方を対象に20人程度の生徒を募集。11月30日まで、出願を受け付けています。

●説明会は10月8日にも、南小泉中学校で開催。詳しくはお問い合わせください。問教育指導課 ☎214・8875

合施設に関する「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本構想」の策定に向け、それぞれ懇話会が設置されました。

ビジョンの検討を目的とした「青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会」は、観光、歴史、まちづくりなどの有識者9人で構成。8月30日に開催された第1回懇話会では、青葉山の歩みや現状などが説明され、委員からは「このエリアにしかない特徴を生かしながらさまざまな人が楽しめる姿を示していくことが重要」などの意見が上げられました。懇話会は、4回の開催を予定し、年度内にビジョンを策定します。

市政トピックス

## G7サミット科学技術大臣会合の開催地に決定

また、9月7日には、複合施設としての在り方や理念を検討する第1回「国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会」が開かれました。この懇話会は、文化芸術、災害伝承などの有識者10人で構成され、当日は7人が参加。開催に先立ち、整備予定地や



▲視察では青葉山エリアの歴史的背景などを説明しました

周辺施設などの現地視察が行われ、その広さや立地などを確認しました。懇話会では、複合施設整備に至る経緯等を確認した後、「施設に配置する人材が重要」、「市民が気軽に訪れることのできる施設を」など、施設の在り方や目指す方向性について意見が交わされました。令和5年度中の基本構想の策定を目指し、引き続き懇話会での議論を重ねていきます。

9月16日に、来年日本で開催される、主要国首脳会議(G7サミット)に伴う科学技術大臣会合の開催地として本市が選定されました。本市でG7の関係閣僚会合が開かれるのは、平成28年に行われた、財務大臣・中央銀行総裁会議に続き、2回目となります。

市では、会合の受け入れ準備を進めるため、9月22日付で文化観光局内に部相当の「G7科学技術大臣会合推進室」を新設しました。今後、会議の開催支援やおもてなし環境の整備、歓迎・情報発信などの事業を通して、開催に向けた機運を醸成し、G7科学技術大臣会合の成功に向けて、取り組んでいきます。

# 3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本を「紹介します」。

未来へバトンをつなぐための本  
地域社会デザイン・ラボ代表 遠藤 智栄



ボブ・スタイルガー 著 野村恭彦 監訳 野村瑞穂 訳 英治出版



開沼博 著 イースト・プレス 刊

「未来が見えなくなったとき、僕たちは何を語ればいいのか。どうして震災後に被災地を訪れ、各地で取り組んだのが「対話の場づくり」。本にはその物語がいくつも綴られています。世界有数のファシリテーターである彼は「誰かが助ける」のではなく「自分たちで変化を起こす」とことを支援してきました。

震災後、私もまちづくり支援者として被災地各地で住民の力を大切にするのを肝に銘じながらワークショップをしてきましたが、悩みや葛藤は尽きませんでした。著者の実践とその場づくり、寄り添い方を知ることが、一人一人の力を生かして地域を創造する上で、必ず役に立つことでしょう。

「福島難しい・面倒くさい」になってしまったあなたへ」という本の帯の文字がぐさっと私の胸に突き刺さりました。2010年から福島県浪江町の事業に関わっていたこともあり、手に取らざるを得なかったのです。著者は書籍の冒頭に「福島を知るための25の数字」というペー

ジを設け、質問を読者に投げかけています。メディアで耳にしているようでも覚えていないテーマの数々。これを本文で丁寧に多角的に説明、紹介し、考え方の視点を提供してくれています。本の発行が2015年。7年たった今、その後の経過や数字を含めた「パート2」があったら読んでみたいと思わせる大事な本です。

●紹介した本は、宮城野図書館でご覧いただけます。問市民図書館 ☎261・1585